

池原 昭治

さやまの冬

第127話



狭山・冬のわらべ唄など
 枯れ葉の舞い落ちる季節が来ました。落ち葉を集めてやきいもを食べたころが懐かしく、雑木林の中を歩きました。その日は北風が強くて、木の枝がピューピューと音をたてて鳴っていました。そして、足元の落ち葉は踏みしめるたびにガサゴソとリズムカルな音をたてました。その不協和音が、なぜかわらべ唄のように聞こえてきたのです。

お寒観音堂観音堂で火が燃える山から小僧が泣いてきた。ピューピュー、ガサゴソ。
 この唄は、その昔新田義貞が鎌倉の北条氏と戦をしたとき、入間川の笹井の観音堂あたりに陣をはり、毎夜かがり火をたいたことを唄ったものだと言えられています。また、観音堂の馬市するとき火を燃やしたのだとも言われ、こんなわらべ唄も伝承されています。

山から小僧が泣いてきた
 泣いてきた
 なんてうた
 泣いてきた
 寒い寒い泣いてきた寒けりや
 あたれあたればあついや
 あつりや すされすされは
 けつがいたけつがいたけりや
 わたをすけたをすきや
 ノミがくつノミがくりや
 くつぶせくつぶせは
 ながいやにがけりや水を飲め
 水を飲めば腹がいてえ...
 と唄いながら狭山の童たちは元氣よく遊びました。



市の鳥 / おなが

おながは、市内に一番多く見られ、林の中や人家付近の立木にもきます。また、尾の長い姿や色が優美なところから、市の鳥として決まりました。

狭山が発祥の地

童句

童句は、自分が童心に帰って詠む俳句です。狭山市童句研究会の選による作品を掲載しています。

散る木の葉 五線譜となる 箒の目 高田 貞子
 くるくると 残り紅葉の 風向計 大谷木 浩子
 怪獣の すがた樹氷の ならみ合い 沙羅 杏子
 数え日を 落語の席に 父といる 堀込 武興
 歳の市 押され見ている 大道芸 武興
 雪に雪が ふりつもっている 土家由岐雄

創始者 土家由岐雄

何かな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？
 正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課までにお送りください。
 締切り12月31日(土・当日消印有効)



11月10日号の答え
 8ページ・ひと・まち・写真館の「商工祭・マグロの解体」の写真でした。



表紙の写真

11月19日、上奥富運動公園で「リサイクルマーケットさやま」が行われ、約4,000名が来場しました。200の出店でにぎわった会場では、家庭で不用になった衣類や食器、おもちゃ、家具などがところ狭しと並び、来場者はお店の人とのやりとりを楽しみながら、掘り出し物を探していました。



狭山市公式モバイルサイトのQRコード
 QRコードに対応した携帯電話で読み取ると公式モバイルサイトへ簡単にアクセスできます